

詩篇 16 篇は、ダビデのミクタムと記されています。ミクタムとはヘブル語で「金」ということばに関係があるのではないかと思われています。よってこの詩は「金文字を持って刻まれた詩篇」あるいは「黄金のようなかけがえのない詩」「黄金の歌、贖罪の詩」などとも言われています。

——— 11 の幸い ———

では私たちも全体が 11 節から出来ているこの詩篇より、キリスト者が持っている、かけがえのない幸いについて学びたいと思います。さて、「第 1 の幸いです」

——— ①あなたに身を避けています ———

(1 節、読む) さて、第 1 節に記されているのは、主に身を避ける幸いです。この所からダビデが彼の全身で、全人格をかけて、神様を信頼していることがわかります。弱った時、困った時、不安になった時、危険な目にあった時、悲しい時、寂しい時、そして絶望の時。その様な時に生きておられる本物の神様に身を避ける人は、祈ることのできる人は何と幸いな人でしょうか。人を信頼できる人は幸いです。でもそれ以上に神を信頼できる人はもっと幸いです。

ジョージ・ミューラーは言いました。「心配の始まりは信仰の終わりです。神への信頼の始まりは、心配の終わる時です」 ですから今私たち、神様のソファーに、全てをまかせて深く身を休ませましょう（委ねましょう）この様にして、安らげる人は幸いですね。

(証) 私はソファーにゆったりと身を沈めて本を読んでいると、必ず寝てしまいます。ですから、堅い椅子に座ることにしています。でもそれ位神様に明け渡して人生安らげたら、嬉しいですね。今寝られない人が多いのです。

ダビデは知っていました。「この本物の神様の内にこそ、私の安全が永遠に保障されているのだ」と。どんな時でもダビデの様に、いつも主に身を避ける人は幸いですね。

——— ②私の幸いは あなたのほかにはありません ———

(2 節、読む) さて 2 節は主のみを幸いとする幸いです。

この所には、ダビデが主に身を避ける理由が記されています。今ダビデは次の様に告白しています。「私のうちにある良きものは、ただあなただけです。」

しかし、今の世は神様抜きで、幸せを求めようとする人で満ち満ちています。教会から離れて行った OL は次の様に言いました。「今私はお花やお茶、それに運転免許を取るために忙しくて、忙しくて、それに日曜や休日には友人とテニスやハイキングに行って、私は私なりに、今は楽しく生きています。」彼女は教会から離れて幸いになったのですね。

しかし、ダビデは人間としての幸い喜びを神以外のものに求めず「私の幸いは あなたのほかにはありません」と言い切るのです。

ある方が言いました。「私の持っているものが皆取り去られても、それで不幸になるわけではない。でも、神様を失ったら、他の全てを得ても不幸だ。」

パウロも言いました。ピリピ 3:7b、8 節「しかし私は、自分にとって得であったこのようなすべてのものを、キリストのゆえに損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。…」ですから、皆さん「すべての物を失っても、幸せと感じたら、それこそが本物の幸せなのではないでしょうか。」

繰り返しますが、ダビデは宣言します「私の幸いは、あなたのほかにはありません。」

今の世の人の楽しみは、人工的な喜び？ 私は刹那的なものとしか感じません。それで満足している人が多いのです。人間ってその程度のものなのではないでしょうか？

——— ③私の喜びはすべて 彼らの中にあります ———

(3 節、読む) 3 節は、主の幸いを友と共有できる幸いです。実は主にあって最高の喜びに満たされている者は、ダビデだけではなかったのです。ダビデの家来も、他の人々も、ダビデの回りにいる神様を信じている人々には、皆同じ喜びがありました。

私たちも同じです、主にある兄弟姉妹たちと、互いの恵みを確認しあい、喜びあい、感動しあいましょう。そんな毎日、何と素晴らしいことではないでしょうか。

第 1 テサロニケ 3:8 節「あなたがたが主にあって堅く立っているなら、今、私たちの心は生き返るからです。」

第 1 テサロニケ 2:19, 20 節「私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのは、いったいだれでしょうか。あなたがたではありませんか。あなたがたこそ私たちの栄光であり、喜びなのです。」

確かに一人の賛美も楽しいが、みんなとの賛美はもっと楽しい。神様から受けた恵みも、皆と分かち合えたらもっと素晴らしいものになります。

親は子供が幸せになれば幸せであるように、牧師の喜びも又、教会の皆さんが、皆幸せになること、皆が成長すること、皆が喜んで生きていることを確認することです。「地にある聖徒たちには威厳があり…」こんな素敵な信徒に囲まれている牧師は本当に幸せだと思います。

——— ④ほかの神に走った者の痛み ———

(4 節、読む) 4 節は、主の嫌われる罪を避ける幸いです。いいかえれば、いつも、神様と同じ心を持てる幸いです。私たちが、主にあってもあまりにも祝福されているので、この神様以外の、神々、偶像に走っている者たちを見ることは、ダビデにとって大きな心の痛みでありました。そこでますます彼は主が嫌われるもの、悲しまれるものには、主のためにも一歩も近づこうとはしないのです。決して同じ道は歩みません。

「彼らが献げる血の杯」これは、異教のお祭りのことです。①異教の神に人身犠牲の血を

注ぐ儀式 ②または、汚れた動物（豚の血を異教の神の祭壇に注ぐ儀式）です。

ダビデは言います。「彼らと同じ道は歩みません」

——— ⑤主は私への割り当て分 また杯。 ———

(5 節、読む) 5 節は、主からすべていただくもので、満足出来る幸いです。

ダビデは私たちの飢えと、渇きを満たす唯一のお方は神様であることを知っています。そして、この神様から与えられるものによって充分、満足をしています。そして、神様が与えたものは誰も奪うことを出来ないことも知っています。

でも、私たちは神様以外の物で、自分を喜ばせていることが多いのではないのでしょうか。

(例えば、世の娯楽、ゲーム、お酒、映画、テレビ、等等・・・)

実は、神様は信仰者の最高の宝、私たちはその神様ご自身をいただいています。そして、その方によって私たちは満ち溢れています。

聖フランチェスコは次の様に言いました。

「私はひばりのようになりたい。

ひばりは貧しいように見えるけど豊か、大空一杯に羽ばたいている。歌っている。

ひばりは貧しいように見えるけど満ち満ちている。

ひばりは貧しいように見えるけど平和で、幸せに満ちている。

ひばりは貧しいように見えるけど神は豊かに養っておられる。

ひばりは貧しいように見えるけどお金では買えない幸せを持っている。」

皆さん、ひばりはひばりらしく生きています。私たちもわたしらしく生きたいです。神様によって造られたそのままの姿を大切に生きて生きる。そして成長しつつ生きる。しかも分を超えないで自然体で生きたいものです。

——— ⑥割り当ての地は定まりました。私の好む所に ———

(6 節、読む) 6 節は、主といつも同じ心を持てる幸いです。

私たちの祈りは、神様のみこころとはしばしば異なっています。でもダビデは、主から与えられたものと、彼自身が欲しがっている物とが、常に一致していました。

私たちも、主の心が私の心、主の喜びが私の喜び、主が愛する者が私の愛する者、主の目的が私の目的、主が嫌いなものは私も嫌い、わたしはそれを避ける。

イエス様もゲツセマネでの祈りで (マタイ 26:39 節) 「この杯をわたしから過ぎ去らせてください」と祈るのですが、「しかし、わたしが望むようにはではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」と祈りました。イエス様と父なる神の思いは一つだったので。そして、私たちと主との思いも一つでありたいですね。

箴言 16:9 節「人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、主が人の歩みを確かにされる。」

箴言 3:6 節「あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」

——— ⑦私はほめたたえます。助言を下さる主を ———

(7 節、読む) 7 節は、主からいつも教えられる幸いです。昨日も今日もそして明日も・・・。

神様からいつも行くべき道を教えられ、そのことを感謝していつも主をほめたたえる。そして主からの教えが、ダビデの心の中にしみ込んでしまった今、ダビデの心は完全に主によって占領されてしまっています。そして、これからも、永遠に教えられ続ける者でありたいと願っています。ダビデは寝ても覚めても「主よ、主よ、主よ」なのです。

「実に、夜ごとに内なる思いが私を教えます。」

(証) わたしもスキーキャンプに行った時でした。ある青年の寝言を聞きました。「主よ、感謝します。アーメン！」

——— ⑧私はいつも 主を前にしています ———

(8 節、読む) 8 節は、主といつも向かい合うことが出来る幸いです。

神様の息がかかる位、神様と顔と顔とを合わせている。今神と向かい合っているダビデ、神様と一つにされているこの充実感。よってダビデは、いつも主の力に満ちています。ですから彼は、少しも動揺しないのです。「主が私の右におられるので・」主が、私の力になっておられるので動揺しないのです。

あのヤコブもベテルで、このような体験をしました。創世記 28：16 節「ヤコブは眠りから覚めて、言った。『まことに主はこの場所におられる。それなのに、私はそれを知らなかった』」この主の臨在の体験がヤコブの人生を変えてしまったのです。

——— ⑨それゆえ、私の心は喜び・・・ ———

(9 節、読む) 9 節は 8 節の幸いのゆえに、主にあって喜び、楽しみ、平安を得ている幸いです。私たち、喜び、楽しみ、平安のバランスは絶対に保たなくてはなりませんね。

第 1 テサロニケ 5：23 節「平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように。あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。」

神様は私たちの体、心（魂）、霊が豊かになるように期待しておられます。【三文説】体は健康に、心（魂）は豊かに、霊はますます聖くされ、全人格的に満たされます。

霊、魂、体はつながっています。(9 節、再度読む)

(証) ある時、頭が痛くて礼拝を休もうかと思った時がありました。でも出席して、その帰り道癒されていることに気づきました。心が落ち込んでいた時も、帰り道スカッとしているのに気づきました。小さいことかも知れませんが嬉しい体験です。

——— ⑩あなたは 私のたましいをよみに捨て置かず ———

(10 節、読む) 10 節は、主によって滅びる事がないことを知っている幸いです。

イエス様の十字架の死によって救われていることに慣れてしまっている私たち。でも、もう 1 度、十字架の原点に帰って、自分が救われている背後にどんなにか大きな主の苦しみと愛があったかを知って欲しいと思います。

これからの、老後の人生を考える時に誰でも気になることがあるのではないのでしょうか？ 老い、子供たちの事、年金……。しかし、永遠のことを考えると、私たちは完全に神様によって命は保証されているのです。世の生命保険に入ったところで命が保証されるわけではありません。私たちは神様の生命保険に入っているのです。だから大丈夫です。

主はすでに墓からよみがえられました。今も生きておられます。これからも生き続けておられます。第 1 コリント 6：14 節「神は主をよみがえらせましたが、その御力によって私たちも、よみがえらせてくださいます。」私たち 1 度は死にはしますが、必ず復活すること、保証されています。私たちの前に死はないのです。ハレルヤ！

——— ⑪あなたは私に いのちの道を知らせてくださいます ———

(11 節、読む) 11 節は主によって与えられた希望の中に生きることのできる幸いです。

十字架によってスタートした人生に滅びはありません。いのちが、喜びが、楽しみが、続くのです。もちろん神様も共に永遠にいて下さいます。

実はペテロも、パウロも、ルカも、キリストの業を語る時、良くこの詩篇を引用しています。(使徒 2：25～28 節、13：35 節、読む) キリストはこの喜び、希望を人に与えるために十字架に掛かれたのです。

使徒 13：35 節「ですから、ほかの箇所でもこう言っておられます。『あなたは、あなたにある敬虔な者に 滅びをお見せになりません。』」キリストが朽ち果てない様に、キリストと共にある皆さんも朽ち果てることは絶対にありません。

——— 11 の幸いから学ぶこと ———

今日は詩編 16 篇の 11 節から、いろいろの幸いについて学び、数えてきました。その幸いは、なんと空の星の数よりも、海の砂の数よりもはるかに多いのです。

創世記 15 章 5、6 節「そして主は、彼を外に連れ出して言われた。『さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。』さらに言われた。『あなたの子孫は、このようになる。』アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。」

神様は、今日あなたにも「あなたの未来は数えきれない位の祝福に満ちた人生になりますよ。」と語っておられます。大きな神様、大きな世界に守られている自分を確認しましょう。「アーメン」と言って、主に感謝しましょう。

私たちが静かな夜に、もう一度、それら一つひとつの恵みを数えてみましょう。

そして、神様に心からの感謝、捧げましょう。

あなたのミクタム（詩篇）があなたの生活の中で、高らかに歌われますよう